

島津製作所 (コード 7701)

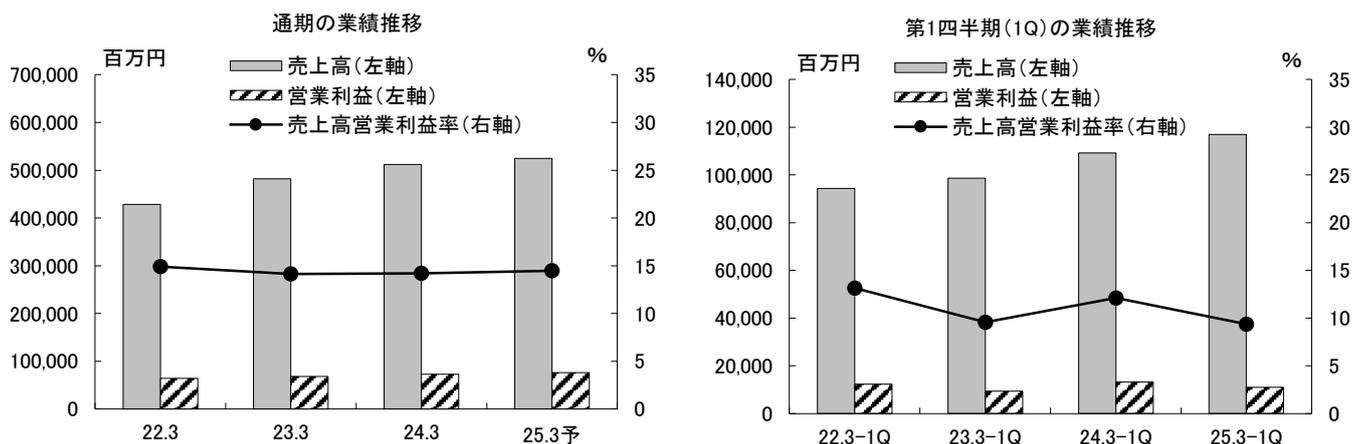
◆各決算期の第1四半期業績推移(連結) (第1四半期のキャッシュ・フローの発表無し)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	94,298	12,418	29.6	—	—	—	—	—
23.3	98,639	9,449	29.5	—	—	—	—	—
24.3	109,200	13,249	37.7	—	—	—	—	—
25.3	116,938	10,961	33.9	—	—	—	—	—

◆通期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	428,175	63,806	160.5	48.0	63,367	▲6,044	▲15,658	155,319
23.3	482,240	68,219	176.6	54.0	48,303	▲34,509	▲19,418	153,734
24.3	511,895	72,753	193.5	60.0	30,127	▲15,998	▲21,098	159,234
25.3予	525,000	76,000	196.8	62.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



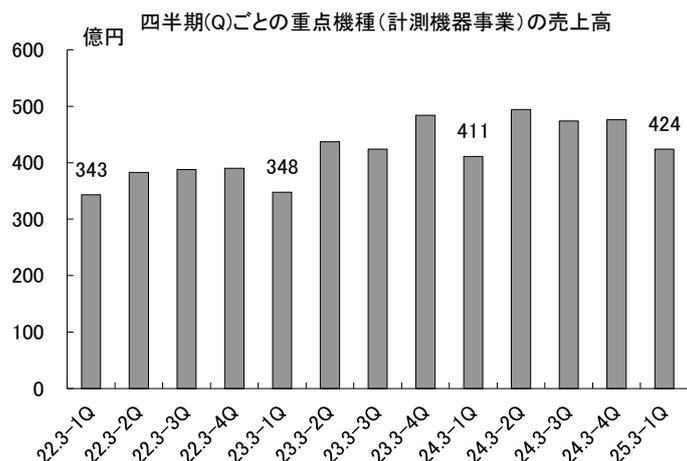
25年3月期第1四半期の業績概況…25年3月期の第1四半期(24年4~6月)は、主な事業セグメントが全て増収となったことから、売上高は前年同期に比べて約7%増加した。一方、利益額の大半を占める計測機器セグメントにおける中国での需要環境悪化に加え、将来に向けた成長投資などにより、営業利益は約17%減少した。

当期の業績は、売上高1,169億3,800万円(前年同期比7.1%増)、営業利益109億6,100万円(同17.3%減)、経常利益136億9,400万円(同12.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益99億8,700万円(同10.0%減)となった。

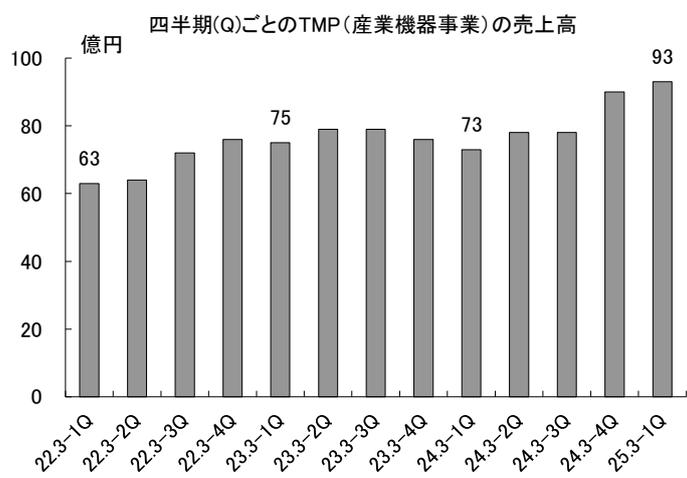
主な事業セグメント別の売上高は、計測機器737億9,500万円(同3.4%増)、医用機器154億5,700万円(同7.5%増)、産業機器175億4,900万円(同19.0%増)、航空機器86億7,500万円(同40.3%増)。また、営業利益は、計測機器73億3,400万円(同32.3%減)、医用機器7,700万円(同94.6%増)、産業機器26億5,900万円(同36.7%増)、航空機器13億1,900万円(同122.8%増)となった。

セグメントの売上高及び営業利益で最も大きい主力事業の計測機器については、液体クロマトグラフ(以下、LC)、質量分析システム(MS)、ガスクロマトグラフ(GC)といった重点機種

ではジェネリックを中心に拡大し、北米ではメガファーマを中心に投資が回復。インドでは自国生産強化の流れを受けて拡大した。中国では米国からのパイプライン減少、CRO（医薬品開発業務受託機関）を中心とする設備投資低迷で厳しい状況となった。MSでは日本、欧州の臨床市場で売上が増加。GCでは脱炭素に向けた投資が継続し、日本及び欧州での需要が拡大した。地域別売上では、日本が前年同期比5%増、北米が13%増、欧州が8%増、その他のアジアが4%増となったのに対し、中国は5%減になったものの前期の第4四半期（24年1～3月、21%減）からは回復傾向に。利益面では、円安効果や営業活動による増加などのプラス要因に対し、中国向け売上減、生産抑制による工場収支影響、成長投資負担などのマイナス要因が上回り、減益となった。



一方、売上高、営業利益とも大きく伸びているのが産業機器事業で、中でもターボ分子ポンプ（TMP）の売上は前期の第4四半期（24年1～3月）から大きく伸び始め、当期は前年同期比27%増、受注も同40%増と好調に推移。TMPは半導体やディスプレイの製造プロセスに欠かせない超高真空環境を作り出す真空ポンプで、特に、需要の回復してきた半導体製造装置向けの売上は30%以上の伸びとなっている。同事業の地域別売上では、日本が19%増、北米が25%増、欧州が14%増、中国が13%増、その他のアジアが37%増と、グローバルで拡大した。



医用機器については、低被ばく・高品質の画像が評価された血管撮影システムや、パワーアシスト機能やシンプルな操作により省力化を実現した一般撮影システムが好調に推移。地域別売上では北米が37%増、欧州が11%増、その他のアジアが16%増となった一方、中国が36%減、日本が1%減となった。航空機器事業については地域別売上で日本が44%増、北米が34%増となり、分野別売上では、政府の防衛力強化方針を受けて防衛向けが約65億円（同44%増）に、民間航空機向けについても航空旅客需要の増加に伴って約22億円（同30%増）に拡大した。

**25年3月期の通期業績見通し**…25年3月期の通期業績は、売上高5,250億円（前期比2.6%増）、営業利益760億円（同4.5%増）、経常利益770億円（同0.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益580億円（同1.7%増）の見通しで、24年5月10日時点での会社側発表値から変更は無い。1株当たり年間配当金は62円（前期実績比2円増）の予定。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。